

事業評価調書

◎基本情報

年度		令和5年度		会計コード		10		一般会計		事業コード		21660		
事業名		国際観光誘致費												
評価担当課		所 属		経)観光・MI 観光・MICE						電話番号		011-211-2376		
施策名		札幌市・北海道の強みである食や観光分野の産業が、時代の潮流を												
アクションプラン		● 対象 ○ 対象外												
事業の性質		○ 経常経費 ● 臨時的経費						○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費						
		○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ● その他												
事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)		人口減少・高齢化が進む中で経済を活性化させていくには、交流人口を増加させることが必要である。国は2030年には訪日外国人6千万人を目指すとともに、消費額15兆円の目標を掲げており、令和5年3月に策定された観光立国推進基本計画(第4次)では、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」がキーワードに掲げられている。 本市においても、インバウンドは冬季や平日の閑散期を担う重要な市場であり、観光関連事業者や北海道、他自治体等と連携を図りながら、外国人観光客の早期回復を図るとともに、観光客の数だけではなく長期滞在化や消費額の増大など、持続可能な観光の実現に向けた外国人観光客の誘客を図っていく必要がある。											
	事業内容(何を実施し)		①札幌市国際観光誘致事業実行委員会への負担金拠出:東アジア、東南アジア、欧米豪等に対し、WEB・SNS等を活用した情報発信、メディア招請、現地イベント・商談会出展、航空便就航地へのトップセールス等を実施した。 ②国際交流員の任用:翻訳・通訳業務の他、外国人目線での各種プロモーションを実施した。 ③道産水産物のPRと連携した外国人観光客等の誘致促進事業:中国が原産地を日本とする水産物の輸入を全面的に停止したことを受け、宿泊施設で提供する魚介類の安全に関する風評被害を最小限にとどめ、さらなる誘客促進を図ることを目的に、インフルエンサーの招請や市内宿泊事業者と連携したプロモーション等を実施した。											
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)		・訪日旅行の旅行地として確固たる地位を確保する。 ・来札観光客の市場内訳に占める欧米豪の割合を高める。 ・都市型スノーリゾートとしてのブランド確立を図る。											
	他都市の状況		各自治体で、訪日客の地方誘客に向け、現地イベントへの参加やメディア・旅行会社招請等各種誘客プロモーションを展開している。											
	市民参加の実施		☐ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外											
令和4年度決算額		98,865 千円		うち特定財源		650 千円		正規職員業務量		1.1 人工				
令和5年度予算額		100,000 千円		うち特定財源		522 千円		正規職員業務量		1.1 人工				
令和5年度決算額		113,520 千円		うち特定財源		510 千円		正規職員業務量		1.1 人工				
令和6年度予算額		100,000 千円		うち特定財源		522 千円		正規職員業務量		1.8 人工				
指標	アウトプット活動指標1		プロモーション市場						という活動、業務を行うことで					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
			3市場		3市場		3市場		3市場		3市場		3市場	
	アウトカム成果指標1		外国人延べ宿泊者数						という状態にしたい、成果を挙げたい					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
			49万人泊		140万人泊		274万人泊		259万人泊		383万人泊		439万人泊	
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方		コロナ前の観光客数へ完全な回復に至っていないアジアに加え、札幌の認知の低い欧米豪市場へプロモーションを強化することで、外国人観光客の増加に繋げる。											
	アウトプット活動指標2								という活動、業務を行うことで					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
	アウトカム成果指標2								という状態にしたい、成果を挙げたい					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
指標2の評価、未達理由、今後の考え方														
今年度の見直し内容		アジアからの観光客の早期回復に向けたプロモーションに加え、滞在日数や消費額の向上に向けた欧米豪に向けたプロモーションや都市型スノーリゾートの魅力発信を実施する。												
来年度以降の方向性		引き続き、民間事業者や北海道、他自治体等とのさらなる連携強化、効果検証を通じたプロモーション手法の見直しを市場毎に行い、外国人観光客の増加や滞在日数の増加・消費額の増大に向けたプロモーションを実施する。												